

KSKP

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ ニュースレター Vol.34

Threshold

～すれっしょんど～ (出発点)

神戸薬物・アルコール依存リハビリテーションセンター

スレッシュヨルドとは、新たな出発点、飛び立つ場所という意味です

Drug Addiction Rehabilitation Centers
DARC

新たなステージへ

仲間たちが回復のレールに乗って、新しいプランにどんどん挑戦していく今日この頃です。これまでコロナ禍において、なかなか前に進みたくても惰性でしか進めない現実が正直ありました。その中で、次の場所へ進む仲間、卒業する仲間、そして新しく門を叩く仲間、全ての仲間が一期一会。薬物依存症になって助けを求めなければ出会えなかった仲間たちです。その仲間たちの次へのステップアップはみんなへの希望になります。そして、また新しい仲間が奇跡的につながっていきます。実は私は今から20年ほど前に、最初は一枚のチラシから回復の居場所へとつながりました。すぐには止まりませんでした。あの頃から僕のギアが少しずつ動き始めたような気がします。先日も、たまたまのタイミングで同じような状況で仲間がつながってきました。僕は、世界のどこかで絶対に俺を助けに来てくれる人がいる。と信じていましたが、人がどんどん離れていく中、どこかの誰かが置いてくれたチラシを僕が受け取り、助かる船に乗ることができました。私たちの歩む道はこれまでもこれからいろいろなことがあるでしょう。ですが周りで前を走る仲間、そしてその仲間たちを暖かく受け入れてくれる地域の方々と、この長田で出会っていきます。10月より、就労継続支援B型事業所がオープンします。地域とつながる場所にしていきたいです。

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 代表理事 梅田靖規

自立訓練(生活訓練)神戸市障害福祉サービス事業所 デイセンター リカバリー

〒653-0041 兵庫県神戸市長田区久保町 7-7-18 ←郵便物はこちらへ

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741 e-mail kobe.darc@gmail.com

西宮ファミリーカウンセリングオフィス

〒663-8177 兵庫県西宮市甲子園七番町 9-18 H2O 甲子園 303 TEL 078-600-9525

共同生活援助(グループホーム)リカバリーホーム TEL078-647-7744 (神戸市須磨区)

リカバリーホーム 2&3 TEL078-764-6988 (神戸市垂水区)

SPEAK EASY(タコス&お弁当販売) 神戸市長田区久保町 3-6-9 1F TEL 078-584-3902

指定就労継続支援 B 型(10月より)事業所 ぱっくやど 神戸市長田区久保町 3-6-9

姫路アディクションサポートセンター 〒670-0832 兵庫県姫路市双葉町 96 Tel 079-255-5033

智頭リトリートヴィレッジ 〒689-1411 鳥取県八頭郡智頭町八河谷杉の木ランド テニスコート下

www.kobedarc.org

神戸ダルク

検索

十津川村キャンプ

メー

施設に繋がって早、2ヶ月。そろそろ色々なことに慣れ始めた1ヶ月を過ぎた8/15~17の3日間、奈良県吉野郡十津川村にキャンプに行きました。

仲間達と協力してテントを張り、バーベキューをし、焚き火を囲み火を見ながらのミーティング、どれをとっても数ヶ月前の自分からは考えられない事です。

「楽しいキャンプ」のはずなのに…神様が自分達に試練を与えてくれました。

初日の夜、普段より遅い時間まで仲間達と語り合いテントでウトウトとしはじめた頃、パチパチとテントを打つ音が聞こえてきました。「雨か…。うとうしいな。」と感じ、なかなか眠れずにいました。知らず知らず眠りに

ついていましたが、凄い雨音と体の違和感が目が覚めました。自分の身体が濡れています。同じテントで寝ていた仲間も目を覚ましていました。雨の強さが増し、テントに浸水しています。あわてて他の2人を起こしたのですが、1人の仲間が全然起きてくれません。起きない仲間の足は、半分ビチャビチャです。処方が効いているのか、ただの鈍感か、ただ、ただ、ズボラなのか、起こすのを諦め3人でテントの水をかきだしました。その水を拭き取った後、自分以外の2人はまた眠りにつきました。そんな事があったので自分はもう寝る事ができません。自分は濡れた水着に着替え、降りしきる雨の中、他のテントに溜まった水を落とし、たるんだシートを張り直し紐で補強等をしていましたが、なかなか雨は止んでくれません。定期的に溜まる水を落とす事を繰り返していると雨は止み朝を迎えました。みんなが次々と起きてきて今度は食事の支度です。自分は料理部に入ったのでキャンプの日は大忙し。夜はカレー、朝はホットサンド。焼肉に焼きそば。そして丸鶏。火を起こしたり、米を研いだり、野菜を切ったり…。そんな作業をしながら皆と会話を楽しんでいると時間なんて、あっという間です。そして次の夜を迎える頃、また雨が降り出しました。昨日の雨に比べ威力が増しています。でも雨の予報と聞いていた事から、昨日の様な事が無いよう、シートの張り具合などは確認済みですが、凄い雨でなかなか寝ることができません。昨日はぐっすり寝れたのか、足がビチャビチャの仲間と遅くまで語り合いました。段々、雨音で仲間の声も聞きづらくなってきたので、テントに入る事にしました。昨日からの疲れで、いつの間にか眠りについた頃、上流にあるダムの方流警報で目が覚めました。この雨でダムが満水になったようです。そうすると川の水は増してきます。気になって一度周りを確認し、それからずっと外を気にしていたのですが、また、いつの間にか寝てしまいました。朝が近づいた頃、パッと目が覚め外の様子を確かめてみると自分達のテントからは一番遠い食材や炭何かを置いたテントが倒れ、シートに水が溜まっていた。勾配のきついテントだった為、大丈夫だろうと思っていました。幸いな事に米と炭は、まだ濡れていませんでした。でも、変な触り方をすると水は一気に流れ食材は台無しになってしまいそうでした。「何とかしないと」と大きな縦に長い鍋で、その水を汲み出しました。回数にして40回ほどでした。それが終わった頃や、時計を見ると、そろそろ起きる時間です。また1日がはじまります。食事作りに後片付け、良い天気になったので吊り橋を渡り、川遊びもしてきました。それから少し離れた所の温泉に行き、自分は大満足。神様が頑張ったご褒美をくれた様です。そしてみんなでテントを片づけ神戸に帰ったのです。雨の日にキャンプをするのは自分にとって初めての経験です。自分にとって良い経験させていただきました。

実は、自分が神戸ダルクに来て野外のプログラムは結構な確率で雨が降っています。自分が雨男なのかもしれませんね。止まぬ雨は無い。降りしきる雨も必ず止む。

雨にも負けず、風にも負けず…

そんな者に私はなりたい。



鳥取での生活と私のころ

スタッフ シモ

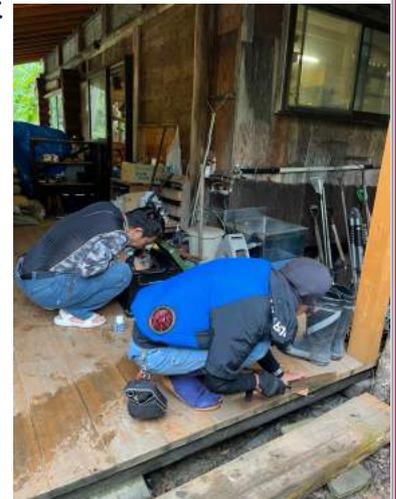
最近、心のバランスがうまくとれていない感じのシモです。コロナ禍にも当たり前になりつつある世の中で、僕の今の仕事や家庭での生活も、何かと当たり前で過ごしていました。そんな中、先日とある出来事がきっかけとなり、今まで自分でも気づけなかった自分の問題が一気に現れて、心のバランスがまったくとれなくなりました。幸い自分でこのままではだめだと気付け主治医のもとを受診することができました。主治医からの提案もあり少しお休みをいただきました。定期的に考えさせてもらっているのですが、当たり前になってしまう事がどれ程の後悔につながるのだろうと…



休みを過ごして仕事へ戻ってすぐに、施設の仲間と共に鳥取にあるリトリートハウスへ行かせてもらいました。

ここには、去年手掛けて完成したデッキとその大屋根があって冬に雪で押し潰された状態の補修等の作業があります。新たな小屋作り等もあり僕にとってワクワクする場所の1つなのです。

鳥取に初めて行く仲間も居て、建築好きな仲間や、自然が好きな仲間もいます。みんなで小屋作りや屋根の補修、掃除、料理作りをワイワイガヤガヤとしながら、普段よりも笑い声がよく聞こえ、いつもとは違う仲間と就寝することも楽しんでいました。作業の方も進めながら、休憩ではベッドを出してのんびり昼寝をしたりしていました。



病み上がりではあるのですが、鳥取のリトリートハウスでは、神戸にいる時よりもゆっくりと時間が進んでいるような感覚で過ごせて仲間同士もいつもより距離感が近く感じる事ができます。

今の僕にとって本当に最適な場所だなあと思いながら仲間と共に作業を進めました。僕の中にある焦りや、恐れ、自己否定的な部分を鳥取での生活は癒やしてくれます。街灯すらない木々に囲まれた空間で夜空には満点の星もあり非日常的な生活をさせられました。まだ以前のように戻っていませんが、鳥取での生活から仕事復帰させてもらった事で、僕の中の心のバランスはとりやすくなったと思います。これからの季節には新緑から紅葉への変化も観れる鳥取のリトリートハウスです。作業を進めがてらにちょくちょく向かい心のバランスをとっていきたいと思います。

冒頭にも書きましたが、当たり前なんて思わず毎日に感謝して生活していきたいと思っています。

公認心理師試験を終えて

ボンドセレクション

約3年前、ある一言が僕を挑戦させてました。「公認心理師という資格があり、受けれるじゃないのかなあ？」と声をかけてくださったウメさんの言葉でした。お金もない私にとっては比較的費用もかからなかったのも、その資格に挑戦することにしました。心理や司法、精神医学について、素人の僕は未知の分野を勉強することになり四苦八苦しなながら資格取得に向けて過去問や参考書を見て勉強しました。

過去何度かニューズレターにも記載されましたが1度、2度と落ちたのですが、今回3度目の挑戦を、講習を受けながら受けることになりました。

施設や仲間からのサポートもありましたが、今回ラストチャンスだったので結果は不合格でした。

結果を受け止めなければなりません、3年かけて取り組んできた挑戦が終わりました。今の僕には何か空白ができたように感じていて、何をやるにも身が入らないです。

なにか僕の道を照らしてくれる何かがあればいいのですが…

挑戦できたこと、支えてくれたこと、学べたことに感謝したいと思います。

トラウマ研修に参加して

スタッフ 石井奈美

数年前、梅田さんがトラウマ関係の研究をしていたときに近いうちに講師を招いてトラウマインフォームドケアの研修をするので、参加するように言われました。

今回、トラウマインフォームドケアの研修をすると聞き、当事者スタッフではなく、直接利用者の支援をする立場ではないからか参加すると言われなかったのですが、以前から研修のことを言われていたためトラウマインフォームドケアとはどのようなものなのか興味があり、支援者としてスキルを身につけたいと思い研修に参加することにしました。

1回目の研修では、まずトラウマとはどんな体験でそれが生き方にどのような影響を与えるのかを学び、トラウマインフォームドケアとは何なのかを風邪を引いた人の例を用いて、風邪を引いた人に対してどのようなケアをすることが良いか誰でも知っているがトラウマについては知らないことが多いのでまず知識を持ち、理解したうえでケアを行うことが大切だと学びました。

はじめは支援する側として参加していましたが、ミーティング形式で他の参加者が積極的に自分の体験について話したり、先生の話の聞いたりしているうちに自然と自分のトラウマや生き方の癖について考えていました。支援者としてトラウマインフォームドケアを行うにはトラウマについて知識を持ち、相手と向き合わなければならないと知り自分の生き方の癖がそれにどう作用するのか少し不安になりましたが、良い機会なのでトラウマインフォームドケアについて続けて学びたいと思いました。

2回目の研修もミーティング形式で参加者が自分の経験やトラウマのことを話す形で行われました。他の参加者の話に共感できることがあり、自分の話す順番が来た時に普段は話さない子供のころの話や家族のことを話していました。自分の子供のころのつらい体験やトラウマについて他人に軽々しく話したくないと思っていますが、トラウマ研修という守られた場所であるからこそ話せたのだと思います。話してしまってから見当違いの話をしてしまったのではないかとかしゃべりすぎたのではないかと不安になったりしましたが、今思えばそれも自分の生き方の癖なのかもしれません。

私は当事者スタッフではないため通常の業務ではわざと一線を引くようにして支援をしています。この研修で他の参加者の話に共感したり、自分の体験について話したりする中で他の参加者との距離が近づいたように思い、仲間に入れてもらえたように思えて嬉しい気持ちになっていました。

トラウマの研修を受けることで、自分のトラウマについて考えたり、自分の経験について人前で話したり、普段だったらしない体験に戸惑ったり、つらい体験を思い出してしんどくなることもあります。人の支援をするにはまず自分を見つめなおす必要があるのだと思います。この経験がトラウマインフォームドケアの支援をする際に役に立てばと思いながら引き続きトラウマ研修に参加したいと思っています。



酒のない生活と私

くりやん

僕は小さい頃から親に厳しくされてきました。父親は酒飲みでよくどつかれていました。母と一緒に手を繋いでいつも逃げてばかりでした。あまり記憶がないんですが、いつの間にか中学2年生くらいから家の都合で淡路島の志筑と言う所に行きそこはせいち学園と言う施設です。そこに2年通ってました。そこを出て大阪に行き寿司の修行を始めました。それからは色んな事もあり店の中で勝手にお酒を飲みよく叱られていました。あまり覚えていないんですが一番覚えているのが神戸です。東門の近くで仕事をしていました。よく流行っていた店です。仕事が終わったらよく浪花と言う居酒屋に飲みに行っていました。そんな僕がこうなった訳は賭け事が始まって酒にはまり悪いことをして刑務所に行きました。中間施設に繋がり中でも色んな人がいます。そんな中で僕も我慢もありぶつぶつ言いつつ今では4年が過ぎようとしています。

たまにはお酒を飲みたいと思う時もありここを出たらあまり自信がありません。それでもやっぱり1人で生活したいのでお酒を少しでも飲まないように努力します。

釣り

おれおれ

「神戸の海、なめたらあかんで」

去年の10月に水戸刑務所から仮釈放で出所して11ヶ月がたちます。出所当初は沖縄ダルクに入寮し、4ヶ月目の2月11日沖縄ダルクからこの神戸ダルクに施設移動をしてきた、薬物依存症のおれおれです。

この原稿を前にして思うに、月日が経つのは早いもので、私が逮捕された令和元年、横浜のウルーヅ船ダイヤモンドプリンセス号を発端に新型コロナウイルスが日本各地に拡散され思いまでも及ばなかった社会情勢の中、刑務所を出所し沖縄ダルクに繋がりました。

新型コロナウイルス感染者が日本で一番多い沖縄の地、沖縄ダルクへ入寮しました。沖縄ダルクでも新型コロナウイルスの感染対策でデイケアの閉鎖など制限が多い日常生活の中、定期的なプログラムとして琉球太鼓の練習が毎週行われる程度しかプログラムがありませんでしたが、私は身体的な問題で琉球太鼓の練習にも参加できません。それでも1回だけではありますが、別な寮で行われた魚釣りプログラムに参加しましたが残念ながら何も釣れませんでした。私の趣味は仕事ぐらいだと思っていましたが、沖縄で体験した魚釣りから仕事以外の趣味があったことを思い浮かびました。

昔、社会人生活を営んでいた時、毎年2~3回ほど海外旅行をしていましたが、よく行く国はアメリカでフロリダ州の最南端キーウエストに2~3週間滞在しトロリングボートを借りキハダマグロを釣りに行っていたことを思い出しました。残念ながら成果はキハダマグロが一度で、他にシーラなどしかありませんでした。キーウエストは南米キューバを望むメキシコ湾の展望を背にしたトロリングは未だに忘れない世界でした。

今回の魚釣りは漁船をレンタルして沖合まで行き魚釣りをを行う予定でしたが、台風の影響で残念ながら中止となり近くの港での魚釣りでした。

神戸ダルクでは通例と言われていた鳥取でのプログラムの最中、姫路で漁船の魚釣りの予定が入り楽しみにしていました。今回はサビキ釣りでしたが、私自身サビキ釣りは初めてで仕掛けの用意に戸惑い釣りを始めるのに時間が掛かってしまったことや、私たちより先に来ている方に成果を聞いたところその日はあまり釣れていないと聞き不安の中釣りを始めましたが、小さいながらそれなりの成果があり楽しかったと思います。

船で沖合に出れるのであれば、ルアーでシーバス釣りをしたいと思っていましたがルアーでの魚釣りはできなかったのは残念でしたが、釣りに行く前施設長から言われた言葉は、上記の通り「神戸の海、なめたらあかんで」でした。今回は、台風の影響で沖合に出ることが出来なかったのですが、次の機会があるのであれば、是非ともルアーをしたいと思っているので、シーバス狙いの魚釣りができることを楽しみにしたいと思います。今回魚釣りのプ

す。今回のプログラムの中で、薬物を使用していなかった昔の生き方を思い出し、私自身の「回復」について思ったのは、回復とは、「正直になる事」だと言われていますが、それ以外に薬物抜きの生活を送るヒントとして、自分自身の趣味の充実させることも大切である事も大切だとこのプログラムを通して考えさせられた事です。今回このプログラムを提供いただいた事に感謝です。



野菜販売

ボンドセレクション

いよいよB型作業所が始まります。その前段階として僕たちが育てている野菜たちを売ろうということで、よく田舎などにある路上販売を新長田のある商店街ちかくのお店の前で始めました。仲間が朝早くから収穫した朝採れ野菜。けして多くはないけれど、その野菜を仲間と一緒にひとつひとつを路上に出せる野菜を選定し、袋に入れて販売できる形にしていき、そして路上販売に。商店街の近くですが、人通りが決して多いともいえず、本当に売れるのかな？と不安でした。路上販売1日目、やはり目新しさと警戒感で路上に出した野菜は売れませんでした。賽銭箱にお金を入れるシステムなのですが、2,3日と経ち、確認のため賽銭箱を確認するとチャリンと音が。。とても嬉しかったです、僕たちが作った野菜が誰か分からないけど手をとってもらったことが。それから路上販売を続けていくと、ちらほらと野菜を買われる方の姿を見ることが出来ました。ある時、更に嬉しい出来事が。お客様が声をかけてもらい「トマトがみずみずしくて、高齢者の家族がいるが、柔らかく美味しかった。」と伝えてもらいました。その他にも購入する方に声をかけてもらい、僕たちの畑で育てていることや何気ない会話をする機会がありました。路上販売で僕たちが育てた野菜を売って手にとってもらうことの喜びもですが、購入を通じて地域の方々との「つながり」をもっていくことを肌で感じ嬉しく思います。これからB型作業所も本格的にはじまり、地域の方との関わりを感じる瞬間が多くあると思いますが、引き続き仲間と共に取り組んでいきたいです。

収穫

まーくん

僕はアディクトのまーくんと言います。刑務所から出所して4年になります。神戸ダルクにいます。1年前からスタッフ兼用務員として働いています。畑の野菜収穫は2ヶ月くらい前から収穫しています。なすびやトマト、ししとう、ゴーヤ、ねぎとか収穫しています。毎日少しずつ野菜が大きくなっているの、それを収穫します。

畑の水やりは全部したら1日かかります。自分達が植えた野菜が大きくなったら嬉しいです。朝グループホームにある苗に水やりをしてから畑に行きます。畑では大きくなった野菜を見てから取っています。畑でとった野菜はB型で出して買ってもらえるように並べて出しています。これからも朝畑に行って野菜を採ります。



活動報告

8月

NA 北関東エリア H&IOSM 参加
加古川学園メッセージ
鳥取ログハウス合宿
NA WSC 座談会参加
トラウマインフォームドケア学習会
播磨マリーナ釣り

9月

松山刑務所教育指導
神戸市再犯防止会議参加
ECCNA37参加
寮大掃除
西宮こども食堂会議参加
教会ボランティア
賀川記念館コラボタコス販売
尼崎中ロータリークラブ様来訪
グリーンテラス神戸キャンプ撮影
宇和島高等学校定時制講演
加古川学園メッセージ&カウンセリング
ファイザー助成プレゼンテーション
ボーリング大会 in 神戸ダルク
依存症セミナー in 西神中央開催
障害者ミサ玉造教会
鳥取アディクションフォーラム in 米子参加
シーキングセーフティーもふもふねっと参加
リカバリーダイナミクス12ステップセミナー開催
TIC 学習会参加
瞑想会開催
賀川記念館タコス販売
加古川学園メッセージ&カウンセリング

定期開催

姫路家族教室 毎月第2土曜日
神戸ダルク家族会 毎月第4日曜日
姫路無料家族相談 毎月第1火曜日
尼崎無料家族相談 毎月第1水曜日
垂水病院すまーぷ参加 毎週金曜日
保護観察所すまーぷ 毎月第4金曜日
ヨーガプログラム 毎月1回



近況報告・活動予定

12月のフォーラムに向けて一丸となっています。そして就労継続支援 B 型事業所の動きも、神戸ダルクにどのように影響していくかが私たちも楽しみにしているところで。コロナも収まってはいないのかもしれませんが、リアルでのヨーガや、賀川記念館でのタコス販売や、野菜の無人販売、教会でのボランティア活動なども始まりました。買い物や仲間同士でのプランなども立てる準備をしながら、12ステップやリーズンのプログラムの充実も予定しているところです。涼しくなっていく中で、みんなで積立てたお小遣いでの旅行や、他の地域へのフォーラムの参加も目白押しです。仲間と出会う旅を、これまでの神戸ダルクのように充実させていきたいですね。晴耕雨読リゾートハウスでの合宿も楽しみなところです。

神戸ダルク ヴィレッジ広報誌「Threshold」 年間購読のお願い

この広報誌「スレッシュヨルド」の年間購読のお願いです。障害者低料第三種郵便物の取得が遅れており、皆様をお待たせしてしまいましたが、漸く第三種郵便物の取得ができました。年間購読費は年6回発行で2000円になります。お申し込みはFAX、電話、メール、または同封の振込用紙にてお願いいたします。お申し込みの際は「住所・氏名・電話番号」を必ず明記ください。

※ 配布用に、当ニューズレターを置いていただける場合はご連絡ください。たくさんの方に読んでいただけるように希望数を郵送いたします。私自身もこのような広報資料を見つけたことがきっかけで回復の場所を見つけることができました。ぜひ、まだ苦しむ依存症者の助けとなるようにご協力ください。

支援会員のお願い

神戸ダルク ヴィレッジでは、支援会員として、活動を支えてくれる方を募集しています。

兵庫県の薬物依存症者を助ける活動をご支援ください。
個人会員は1口 3000円（ニューズレター定期購読料を含む）からになります。刑務所内の方々と文通による支援のための切手代などに使わせていただきます。

ご連絡をお待ちしています。

領収書希望の方は一言ご記載ください

神戸ダルク ヴィレッジ

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741

e-mail: kobe.darc@gmail.com

電話相談 来所による面談 メール相談 相談の内容に関しての秘密は厳守します

逮捕・勾留中の方々への支援

刑務所・拘置所・留置所への面会、手紙などによる逮捕者及び保釈中の方への裁判での情状証人出廷や、刑務所出所者への薬物からの回復を希望する方の引受人としての指導対応や、出所前面談など、他機関と連携しながら対応しています。また、資料請求などもご連絡いただければ対応いたします。

★月曜～金曜 10:00～17:00

メールは24時間 OK。 kobe.darc@gmail.com

神戸ダルクへのご献金・献品のご支援本当にありがとうございました。

開設から今日までをたくさんの方々に支えられてきたおかげで、仲間一同、回復のプログラムに取り組むことができています。心より感謝いたします。これからも暖かく見守ってください。

ご献金

生田 茂美様 緑が丘法律事務所 弁護士 吉倉 美加子様

ご献品

匿名希望 1 名

(令和 4 年 8 月 16 日～令和 4 年 9 月 15 日到着分・順不同 ※購読料・支援会員費の方を含む)

寄付や献品のお願い

引き続き、非常に苦しい状況の中、お米などのご支援ありがとうございます。不思議なもので、お米のストックがあると、本当に安心します。生活習慣病を気にしながらも、回復初期は食べて栄養をつけて体力的に回復するところから始まります。コロナ。まだまだ予断は全く許さず、少し行動範囲も広がったものの、自粛生活は続いています。ご家庭で余っている食料品（米、野菜、乾物、味噌、醤油など）から洗濯洗剤やシャンプー、石鹸、などの日用品などがございましたら、神戸ダルクまでご献品ください。たくさんありましたら、車で取りにいくこともできます。今非常に助かるのは、食材や日用品です。コロナの影響で外出が少ないため、ストレス発散には、どうしても食事が進んでいきます。心苦しいですが、ご協力をよろしくお願いいたします。

ご寄付振込先口座 ゆうちょ銀行

口座番号 00950-9-275937

口座名 シヤ) コウベダルクヴィレッジ

店番 〇九九 0275937

献品の送り先住所 653-0041 神戸市長田区久保町 7-7-18

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ



編集後記

秋ですね。まだ秋とは言えない暑さもありますが、秋は回復の秋だと思います。仲間が急にたくさん増えました。賑やかになっていく神戸ダルクですが、活動の幅も広がっていきます。ボランティアに行く仲間や、バイトに行く仲間など、みんなそれぞれの生き方を歩いていきます。ですが、朝はみんなダルクに集まり、夕方またダルクで集合。そんな日々もあっという間に過ぎていきます。今回のニュースレターはタコス屋のオープンに合わせて発行しました。次号はおそらく年末になると思います。

神戸ダルク ニュースレター Threshold (出発点) Vol.34

編集人 一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 梅田靖規

印刷 プリントバック

〒653-0041 兵庫県神戸市長田区久保町 7-7-18

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741

e-mail kobe.darc@gmail.com

www.kobedarc.org

価格 1部 100円 年会費 3000円

(購読料は年会費に入ります)

発行人 関西障害者定期刊行物協会

〒543-0015 大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル 4階